

# 地域と『つながる』

## 出前講座を通って

地域の集いの場で「出前講座」を開催することを目的として、東広島市社会福祉協議会によって「つながるBOOK」が製作されました。私ども平成会も、ご方々の冊子で4つの講座の開催をご案内しています。その中で、今回は「ミュージック・ケア体験」講座をご紹介します。

私は、相談支援センター「こだま」の相談支援専門員として、障害のある方やご家族を対象に相談業務を行っています。業務で生活介護事業所（デイサービス）やおおぞら保育園にてミュージック・ケア（集団音楽療法）を実施しています。11月10日に「すずらんテイタイムの会」様より出前講座のご依頼を承り、杵原上集会所にて約60分の音楽療法を体験して頂きました。当日は、約10名の地域住民の方々にご参加頂き、初めは緊張した表情がうかがえましたが、プログラムが進んでいく中で皆さんの輪が笑顔に包まれ、終了後には「子どもの頃に帰ったような気持ちになって楽しかった」という心温まる感想も頂きました。

今回の出前講座を通して、地域に出向き住民の方々の活動に参加することで、地域と「つながる」に一歩前進となったのではないかと感じました。相談支援センター「こだま」では現在、地域の中で子どもから高齢者まで、総合的な相談支援機能の充実を目指しています。そのために、今後も相談員が地域に足を運んで顔の見える関係を築き、身近なお困りごとの相談窓口として地域に根付いていければと思っています。

相談支援専門員 梶川 響子



# 宮領フリークセンター

## Aや2のじゅ

就職を目指しているAさんは、接客や内職など様々な仕事に意欲的に取り組んでおられます。ある時、Aさんが廊下で人とすれ違う際、うつむきながら挨拶をしている姿を見かけました。「ご本人に尋ねてみると「実は人と話す時、緊張してしまふんです」と話していました。

そこで、Aさんが自信を持って人と話をする機会を設ける支援を始めました。施設見学に来られた方への事業所の紹介をお願いしたり、取引先からの内職の部品を受け取ったりと、実際の場面で経験を積むこと。職員がモデルとなり、やり取りを見てもらったり、Aさんが話をする際に職員が傍でサポートしたりと、Aさんが安心して取り組めること。この2つを大切に取り組みました。

自分の言葉で相手に思いを伝えられるようになるにつれ、困っている仲間自分から声をかけたり、作業場全体に目を向けてサポートに回ったりと、自信を持って仕事に取り組む姿が見られるようになりました。今では廊下ですれ違う際に、自分から声をかけてくださいます。

これから就職されても、人との繋がりが今後のAさんの支えになればと思います。

就労支援員 神野 健人



# ブルーポーホームページ

## 夢の実現に向けて

地域共生の実現に向けた啓発活動を目的とした東広島市主催の「ぐるマルフェスタ2021ひがしひろしま」の様子が、東広島芸術文化ホールからウエブで発信されました。このフェスタのコーナーで、入居者Tさんの塗り絵作品の展示と、日中活動の様子が動画で紹介されました。Tさんの色彩豊かな作品は、東広島市自立支援協議会権利擁護部会の冊子の表紙や、多機能型事業所あさひが販売しているチョコレートのパッケージにも採用されています。

Tさんは、他者との関わりが上手くできずトラブルも多くありましたが、自分の作品が冊子の表紙を飾ったり、日中活動の動画配信や塗り絵作品が展示され、評価されることで落ち着きを取り戻し、Tさんらしく「生き活きと自信を持って生活されています」。

Tさんは、「すごい。自分の紹介と作品が展示され、ネットにも出ている。自分の作品を皆さんに知ってもらえて嬉しい」と興奮しながら話され、塗りの絵を通して自分の感性が表現できることによって、創作意欲も更に増した様子です。

グループホームで仲間と暮らしながら、日中活動場所として仕事を続け、得意の塗り絵作品を作り続ける事が、Tさんの目標です。現在のTさんの生活もノーマルな事として認められるよう、地域行事に参加したり、広報誌やブログに作品を紹介して自己実現に向けて頑張っている姿を知ってもらおう事で、ノーマライゼーションの啓発活動に取り組んでいきたいと思っています。

支援員 上川 博人



## 『あさひまるしえ』から繋がる地域の輪

「コロナ禍のため外出の機会もままならない今、改めて地域との繋がりを大切に、地域から必要とされる施設であるべきという強い思いから、先日『あさひまるしえ』を開催しました。

当日は、あさひの利用者とチョコレートや紙すき製品など、自主製品の販売と移動販売車を活用したホットチョコレート、絵がき体験の提供などを行いました。また、地域の飲食店の力になりたいとの思いから、町内のホテル大広苑様のお弁当販売も行いました。竹原市自立支援協議会のキャラクター「かぐやパンダ」も応援に来てくれました。

初めての開催でしたが、来場者は160人を超え、笑顔溢れるイベントとなりました。住民の方からは、「チョコレートを市民の皆さんに知って欲しい」「なかなか会えなかった方と話が出来て楽しかった」等の温かいお言葉を頂きました。

尚、当日のフリーマーケットの売上6400円は、全額を広島県共同募金に寄付させて頂きました。

今後地域のニーズを知り、地域のために貢献していきます。次回の『あさひまるしえ』もぜひご期待！

支援員 赤木 千佳



# 西の池学園

## 人材育成研修を通じて

平成会では、法人内での人材育成研修会を10年前から実施しています。6年前からは、経営コンサルタントの堀中嶽水先生をお招きして、一般職、指導職、管理職の各階層別の研修会を実施し、それぞれの立場で、業務改善や支援の向上に向けての実践的な研修を行っています。

今年度の一般職研修は、各事業所の管理者が設定したテーマに基づいて、いくつかのグループごとに自分たちの果たすべき役割を考え、目標達成のための具体的実践に取り組みました。

「少しでも利用者に高い工賃を支払い、自立した生活が送れるようにしたい」「どのように地域貢献をしていくか」「虐待防止の取り組み」

「入居者の満足度アップのために」などの課題解決のために、若い職員が上司に何度か相談し、事業所が一体となって考える雰囲気が生まれています。そして、3日に分けて行われる全グループによるプレゼンテーションを経て、取り組みを継続していきます。

こうした研修活動を通じて、平成会の職員一人ひとりが、より一層成長できるように取り組んでいきたいと思っています。

主任 金子 亮平



# 宮領フリークセンター

## Aや2のじゅ

就職を目指しているAさんは、接客や内職など様々な仕事に意欲的に取り組んでおられます。ある時、Aさんが廊下で人とすれ違う際、うつむきながら挨拶をしている姿を見かけました。「ご本人に尋ねてみると「実は人と話す時、緊張してしまふんです」と話していました。

そこで、Aさんが自信を持って人と話をする機会を設ける支援を始めました。施設見学に来られた方への事業所の紹介をお願いしたり、取引先からの内職の部品を受け取ったりと、実際の場面で経験を積むこと。職員がモデルとなり、やり取りを見てもらったり、Aさんが話をする際に職員が傍でサポートしたりと、Aさんが安心して取り組めること。この2つを大切に取り組みました。

自分の言葉で相手に思いを伝えられるようになるにつれ、困っている仲間自分から声をかけたり、作業場全体に目を向けてサポートに回ったりと、自信を持って仕事に取り組む姿が見られるようになりました。今では廊下ですれ違う際に、自分から声をかけてくださいます。

これから就職されても、人との繋がりが今後のAさんの支えになればと思います。

就労支援員 神野 健人



# デイセンター「こだま」

## 虐待防止に向けた取り組み

今年度の人材育成研修で、私たちのグループは「虐待防止の取り組み」をテーマに考えました。

障害者虐待防止については、施設の運営基準に盛り込み、研修の実施、虐待防止委員会と責任者の設置等を推進すること、身体拘束について見直し適正化を図ることなどが求められています。

こうした中で、私たちは、自分たちの支援の在り方について改めて自己検証する必要があると思い、このテーマにしました。

職員に、虐待への認識やイメージについてアンケートを実施した所、多くの職員は虐待に対して「叩く、殴る」というイメージを持っていることが分かりました。結果を受けて私たちは、虐待には様々な種類があり、愛称で呼ぶことや、利用者の行動を制限する（行きたくない所に行かせないようにする）など些細な事の繰り返しが虐待に繋がるといふこと、そして職員が「時間通りに食事や活動場所に誘導しなければならぬ」という焦りから、利用者の意思を無視して誘導することになっているのではないかと、いったことを話し合いました。

自分たちの支援が虐待に繋がる可能性があり、決して他人事ではないということを意識して、お互いの気付きを指摘し、行動を改める風土を作っていきたいと思っています。

支援員 清水 菜央



※誌面の写真、名前については、ご本人の同意を得て掲載しています。